

エルガシェウ・シャフゾド

タジキスタン出身

東京外国語大学 総合国際学研究所 修士課程

旅にはアクシデントがつきもの(?)

今回のエッセイでは、今年の春に起きた旅行中の一つの出来事について取り上げる。私が来日して以来しばらくの間、日本ではコロナウイルスの蔓延に伴い、国内を自由に旅行することは決して推奨されるものではなかった。だが、今年になって漸く再び旅行ができる機運が高まり、私は三月に友人たちと神戸や京都といった関西地方へ旅行することとなった。

神戸へ行くには新幹線が一番便利だと聞いていたが、目的地へ着くまでにいくつか寄り道ができるよう、今回はレンタカーで神戸へ向かうことにした。神戸までの道のりは非常に長いので、早朝に東京を出発した。だが、旅行開始早々にアクシデントが起こる。なんと、私達の乗っていた車のエンジンが突如故障し、車が高速道路で止まってしまったのだ。こうした状況は私も友人たちも初めてなので、お互いどうすれば良いかわからず途方にくれた。ひとまず、保険会社に電話し、私たちの車はトランクが回収しに来てくれると伝えられた。トランクが到着するまでの間、高速道路で車から降りずに車内で待機しているのは危険であるため、仕方なく車から降り、高速道路の端のほうで凍えるような寒さの中トランクを待った。そして、漸くトランクが到着し、故障した車を滋賀の大津まで運んで行った。私はこの時の車の保険会社に言葉では尽くせないほど感謝している。というのも、旅の足を失った私たちの旅行は最早終了同然かと思われたが、なんと保険会社が代わりにレンタカーを手配して私たちのもとまで届けてくれたのだ。それ故に、私は日本の保険会社のシステムは非常に良心的だと感銘を受けた。

こうして、前途多難かに思われた旅行も漸く再スタートし、最初の目的地である神戸に無事辿り着くことができた。現地に住むタジク人たちと再会し、彼らと共に神戸の港町を大いに満喫した。その後は、大阪と京都にも足を延ばした。特に、京都での歴史的に由緒ある町と建築物を巡る旅は、タイムスリップをしているかのようで非常に印象深かった。

今回の旅行は訪れた先々での思い出も沢山あるが、やはり一番忘れられない出来事は高速道路での一件だ。いかなるアクシデントにも迅速に対応し、利用者の「その後」も手厚くサポートする今回の保険会社の姿勢から、改めて日本の「おもてなし」の精神を感じ取った。今回の旅行での一番の収穫は、「日本の良さ」を再認識できたことだと私は考えている。

以上

